

参考資料①

第5回印西地区ごみ処理基本計画検討委員会の概要

日 時 平成25年10月20日（日）14時～17時07分
場 所 組合3階大会議室
参加者 委員12名(5名欠席)、事務局7名、関係市町3名
 コンサルタント2名、傍聴人6名

議題1 用地検討委員会の進捗状況について

第6回用地検討委員会の概要を資料として提出 資料1（ホームページ掲載）

議題2 ごみ排出量及び処理量の目標について

アンケート調査結果を踏まえ、ごみ減量施策を新たに追加するなどそれぞれの施策に取り組むことで、目標を達成する。

スリム25（25%削減・資源化）をスローガンに2R（リデュース、リユース）に重点を置き排出抑制及び資源化を可能な限り推進することを目途に減量目標値を設定。

- ① 総ごみ排出量原単位 760g／人・日（平成40年度最終目標）
- ② 家庭系ごみ排出量原単位 430g／人・日（平成40年度最終目標）
470g／人・日（平成32年度中間目標）
- ③ 収集・集団回収資源物排出原単位 200g／人・日以上とする。
- ④ 事業系ごみ排出量原単位 130g／人・日以下とする。

以上の通り決定する。 資料2-②（ホームページ掲載）

※ごみ排出量推計は、過去5年間の実績に基づくものとしたが、本目標値は過去10年間の実績に基づく将来予測ともほぼ合致している。

議題3 ごみ減量施策及びアンケート結果について

プラスチック容器包装を次期中間処理施設でサーマルリサイクルすることについて協議し、その結果、プラスチック容器包装の活用方法の検討については、今後継続する旨を本計画書のその他計画（循環型ごみ処理システムの構築）の③に追記することとなる。 資料3-①（ホームページ掲載）

議題4 次期中間処理施設整備事業の基本方針について

【提案内容】資料3-①（ホームページ掲載）

I 「ごみ処理基本計画」の中間処理計画

(1) 市町村の一般廃棄物処理システムを通じた3R推進

廃棄物を最大限循環活用できる施設とし、加えて地域特性と最新技術を導入した環境負荷の低減及び環境教育等福祉の向上にも効果がある施設を整備します。

(2) 地域住民等の理解と協力の確保

情報発信拠点の役割を兼ねる施設とし、環境に関する情報の他、地域住民の事業者の理解と協力を得られる情報を提供する施設を整備します。

(3) 広域的な視野に立った廃棄物処理システムの改善

30年間の安全稼働・安定処理を見据え、最適な施設整備と維持管理方法を調査研究していきます。

(4) 地球温暖化防止及び省エネルギー・創エネルギーへの取り組みにも配慮した廃棄物処理施設の整備

ごみの持つエネルギーを最大限有効に活用できる施設とし、地域特性に応じて高効率な発電や地域と連携した熱供給などによる地域還元に取り組みます。

(5) 災害対策の強化

大規模災害にも稼働を確保しその役割を継続できる強固な施設とし、災害廃棄物の処理を考慮した一定程度の余裕を持った能力、ストックヤードの整備などによる防災拠点化を目指します。

(6) 廃棄物処理施設整備にかかる工事の入札及び契約の適正化

入札・契約に際し、総合評価方式を導入し、透明性の確保・競争性の向上に努めます。

前回委員会からの継続審議となった上記事項については、承認された。

将来施設規模の見込み166t/日±10%の根拠として、平成40年度焼却処理見込み量37,893.96t+災害廃棄物処理量1,000t+その他のごみ量3,000tを見込むこととする。